

平成 22 年 10 月

[配布先：全組合員]

市場情報

<各地区市場動向>

北海道

地方の景気回復策を強く要望

「暑さ寒さも彼岸まで」のことわざ通り、大雪山系黒岳で昨年より 13 日遅れ 22 日に初雪、紅葉もいよいよ見ごろ、ようやく北海道らしい爽やかで清々しい季節を迎えた。

行楽の秋、収穫の秋、しかし、建設業界は不作の秋、大型物件の始動は大幅に遅れ、大半が来年以降にずれ込み、鉄骨ファブの工場稼働を充たすには需要が少なく、早くも「秋枯れ」、中小を中心に経営環境が一段と厳しさを増すのではと懸念されている。建築着工統計平成 22 年 1～7 月実績から推計する道内の鉄骨推計は 6 万 1,500 トンで、史上最低であった前年の同期に比べさらに 17.1% 減少となり、最低レベルまで落ち込んだ。橋梁も今年度発注見込みは、国と道を合わせ約 1 万ト、前年度に比べ 47.4% 落ち込む上、選挙の影響もあり発注が遅れている。

道内需要構造の中心である建築鉄骨および橋梁は、発注の遅れから、秋口は需要の最盛期にもかかわらず、切板供給能力のカバーには程遠く、低操業を余儀なくされている。価格についても、ゼネコンの過当競争は激化。ファブからの指値は厳しさを増し、小ロット・小物・型・異型・短納期にもかかわらず、採算ラインを大幅に下回る関東の切板価格にて指値、さらにこの先悪化が予想され、厚板母材の「北海道価格」解消と、政府は「コンクリートから人へ」から、疲弊著しく先行き不透明な地方に対しては、「地方の景気回復を最優先に」政策を推し進めて欲しいものである。

(玉造・西村卓也)

東 海

猛 暑 が 過 ぎ て . . .

毎年他地区より暑いといわれている当地区ですが、今年は例年をはるかに上回る猛暑に苦しめられた夏でした。

一般的に猛暑の夏は景気が上向くなんて言われますが、今年の夏は、気温は高位安定、我々の受注量は低位横ばい。暑さに苦しめられ、仕入先、メーカーとの価格交渉で苦しめられ、ユーザーからの無茶な指値、受注量減に苦しめられた 3 重苦の夏でした。

その夏もようやく終わりを迎え、お彼岸も過ぎ朝夕は過ごしやすくなってきましたが、我々を苦しめてきた 3 重苦は依然変わりません。それに加え政府が介入したにも関わらず、先の見えない不安定な円高為替相場と株安が続き、我々を取巻く環境はますます厳しさを増してきているように思われます。

ここに来て自動車関連の設備投資の延期、生産拠点の海外シフトなど、マイナスの話が多い当地区ですが、一刻も早く秩序を取り戻し、切板市況を安定させることが第一かと思われまます。まだしばらく苦しい状況が続くかと思われまます、歯を食いしばり耐え忍ぶ必要があると思われまます。

(青山商店・青山高久)